

1. 教育内容の充実

目 標

学生が主体的に学ぶ姿勢を醸成し、成長を実感できる教育を行い、主体的・対話的で深い学びを実現する。

評価指標

①教養教育科目の充実

- ・情報リテラシー教育について、習熟度別クラス編成や到達目標の明確化によって質の向上を図る。
- ・さまざまな言語を学びたいという学生に応えるための多言語教育の体制を整備する。

②柔軟な学部教育

- ・学部横断的な教育を実施し、7学部を有する総合大学としての特色を十分に活かすために、学部の枠を超えた履修プログラムを推進する。

③ジェンダー教育の推進

- ・女子教育機関として、女性の多様な生き方を学び、ジェンダー視点に留意できる知識、理解、思考、判断の力を身につける。

④食育の推進

- ・健全な心身を培い、豊かな人間性を育むために、食に関する知識と食を選択する力の習得を推進する。

⑤他大学との単位互換制度の充実

- ・学芸員資格や司書資格など資格関連科目を中心とした科目において、他大学と連携し、単位互換制度によって学生が資格を取得しやすい環境を構築する。

⑥教員の研究を促進する体制の整備

- ・教員自身が専門的研究を深めることが学生の学びにつながるという認識の上に立ち、専門的研究を促進する環境の整備に努める。

⑦教育の内部質保証

(1)学習成果の可視化

- ・学習成果を測るために、数値化できるものにとどまらず、多様なものの見方や創造性など質的な側面も含めた梶山独自のインデックスを開発する。

(2)FD 活動の活性化

- ・相互授業参観や授業方法についての研修会を開催するなど、従来から実行しているFD活動をさらに活性化させる。
- ・授業アンケートの結果を授業改善につなげていくための有効なツールを検討・開発する。

(3)第三者評価の実施

- ・外部評価委員会を設置し、地域や産業界の意見を聞く仕組みをつくる。

⑧大学院教育の充実

- ・大学院における専門教育及びリカレント教育等を充実させ、全研究科の定員の確保を目指す。
- ・卒業生の学び直しのみならず、女性の起業支援など、実質的なキャリア教育に結びつくプログラムを準備することにより、魅力ある大学院を構築する。
- ・学部横断的な研究科の構想を検討する。
- ・大学院の相互入学を意図した他大学との大学間協定を締結する。

2. 学修支援

目 標

学生の多様なニーズに応じた学修支援を行い、教育効果を高めるとともに、学生が学修を深めることができる環境を整える。

評価指標

①学修ポートフォリオ（Success）の活用

- ・学生自身が大学生活や自らの学びを客観的に振り返ることができるよう学修ポートフォリオ（Success）の活用を促進する。

②学生の主体的な学修のサポート

- ・学生が主体的に学ぶことができるスペースを拡充する。
- ・図書館や自習スペースの運用方法について、開館時間を見直すなど、柔軟な運用を図る。

③きめの細かい指導体制の確立

- ・GPA を活用することによって、学修状況を把握し、指導につなげる体制を拡充する。

④アクティブ・ラーニングの活用

- ・アクティブ・ラーニングを活用することによって、応用力を身につけ、多様な視点からものを見ることでクリティカル・シンキングのできる力を養成する。
- ・自由な雰囲気学ぶ環境を提供することによって、リーダーシップの取れる人材を育成する。

⑤図書館機能の充実

- ・ラーニングコモンスの拡充を図る。
- ・ライブラリー・サポーター制度をより活性化させ、学修の主体性を涵養する。

⑥ICT の活用

- ・E-Learning System の活用を図る。
- ・授業における JMOOCS 等の利用促進を図る。

3. 学生生活

目 標

学生間、学生と教職員など、学内コミュニケーションの一層の充実を図り、必要なサポートがすぐに得られる安心・安全で健康的なキャンパスライフを実現する。

評価指標

①快適な学生生活環境の提供

- ・学部を越えた多彩な居場所空間（グローバルカフェ、ブックカフェ、リラックスルーム、フィットネスルームなど）を創出することによって、学生生活の満足度を高めるキャンパス空間を整備する。
- ・ピアサポート制度を充実し、学生同士がともに支え合いながら学生生活を送ることができるような仕組みづくりを行う。

②学生サポートの充実

- ・多様な学生に寄り添ったサポート体制の構築・改善に努める。
- ・様々な悩みを抱える学生、障害のある学生に対する支援体制を充実させる。
- ・入学から卒業まで途切れることのない一貫したサポート体制を実現するために、エンロールメント・マネジメントを導入する。

③経済的苦境にある学生の支援

- ・奨学金の見直し、学内での学生アルバイトの拡充などを通して、経済的な不安なく学生生活を送ることができるような環境を整備する。

④可能性を広げる機会の提供

- ・国際交流センターの機能を拡充し、留学支援体制を充実させるとともに、グローバル教育を推進する。
- ・全学共通の海外研修制度を整備し、幅広く学生の海外研修希望に応える体制を整える。
- ・学生が自ら発案・実行するプロジェクトを支援する制度を創設する。

⑤ハラスメントのないキャンパス実現に向けた取組の強化

- ・ハラスメント防止に対する更なる意識の向上を図り、ハラスメントのない環境づくりを促進する。
- ・ハラスメント行為の発生に備え、迅速かつ適切に対応できる体制を維持・強化する。

⑥安心・安全を生む危機管理体制の整備

- ・南海トラフ巨大地震など様々な危機的状況に対応するために、危機対応マニュアルを整備するとともに、安否確認システム、防災教育、防災訓練等の充実を図る。

4. キャリア支援

目 標

学生が就職、進学など進路についての希望を実現できるように、支援体制の充実を図り、就職の「質」を向上させ、卒業後も生涯にわたり支援する。

評価指標

①キャリア育成センターの充実

- ・就職、進学など学生が希望する進路を自らの力によって切り拓くための指導ができるよう、キャリア育成センターの機能の一層の充実を図る。
- ・入学から就職・進学までの系統立った早期からのキャリア支援を行うことで、学生の「就業力」を育成する。
- ・総合職と一般職など学生の意向を尊重し、進路変更にも柔軟に対応する就職相談体制を整備する。

②キャリア育成センターと学生相談室及び学修・生活指導教員との連携

- ・キャリア育成センターと学生相談室及び学修・生活指導教員とが連携することによって、学生の個性にあったオーダーメイドなキャリア支援を実現する。

③インターンシップの拡充

- ・インターンシップ制度を充実させる工夫や改善を実施する。

④ニーズを把握するアンケート調査の実施とフィードバック

- ・学生・卒業生に対するアンケート調査を実施し、エビデンスに基づいて、就職に関するキャリア教育及び人材育成の改善・充実を図る。

⑤各種資格取得の支援

- ・情報処理、語学など、キャリアアップにつながる各種資格取得に向けた支援を行う。

⑥大学院への進学を希望する学生に対する支援

- ・大学院への進学を希望する学生に対して、タイムリーかつ適切な情報提供を行う。

⑦国家資格及び公務員志望学生に対する支援

- ・学部ごとの就職の特色に配慮しながら、国家資格取得に向けた支援策を実施し、合格率を上昇させる。
- ・公務員を志望する学生を対象とした各種講座を開催し、合格率の上昇を図る。

⑧同窓会組織との協働によるリカレント教育の推進

- ・卒業生への就職相談及び情報提供を積極的に行い、リカレント教育の拡充に努める。

5. 学生確保

目 標

教養から実学まで、在学生から卒業生・社会人まで、幅広い学びの要求に応えることによって、中長期にわたり安定した定員管理と質の高い学生の確保を実現する。

評価指標

①適時的なアドミッションポリシー

- ・時代の変化と社会のニーズを踏まえ、常に適時性のあるアドミッションポリシーを編成し公表する。

②入学定員の安定的確保

- ・全学部について、継続的・安定的に入学定員を確保する。

③ねらいを絞った効果的な入試広報

- ・東海3県（愛知県、岐阜県、三重県）の高校生を主なターゲットに効率的・効果的な広報活動を行う。
- ・連携協定校の増加を図るとともに、併設校及び連携協定校との実質的な交流を促進する。
- ・オープンキャンパスの開催時期、内容、その他の工夫・充実を図るとともに、来場者の本学志願率を把握し、その上昇を目指す。

④多様な人々に開かれた入試制度

- ・優れた学力、技術、その他の個性を有する質の高い学生を確保するための新たな入試方法を検討する。
- ・社会人、編入生、留学生等の受験機会を拡大するための多様な入試制度を導入する。

⑤調査研究

- ・大学 IR 室を中心に、学生確保のための計画立案に寄与する調査研究を積極的に行う。

6. 社会連携

目 標

他大学、行政組織、企業など、地域社会の様々な主体との連携を進めることによって、本学の活性化と発展を目指すとともに、地域社会に貢献する。

評価指標

①地域内外における他大学との連携

- ・他大学との連携を推進し、共同授業の開講や単位互換、施設の共同利用によって、学生や教員の知的活動を活性化する。

②行政組織との連携

- ・名古屋市、千種区・名東区、日進市をはじめ東海地区の行政組織との連携を進め、学生ボランティアや教職員の派遣など、これまで以上に交流を活性化させる。

③星が丘エリアのまちづくりへの参加

- ・名古屋市や地域の企業等と協力し、星が丘エリアのまちづくりの一翼を担う。

④産業界・地域社会との連携促進

- ・企業との共同研究の実施及び企業からの受託研究の増加を図る。
- ・企業・行政・NPO/NGO など、地域社会の諸主体と協働しながら、SDGs の達成に貢献する。

⑤子育て支援・幼児教育拠点施設としての椋山こども園の活用

- ・椋山こども園を、星が丘エリアにおける子育て支援・幼児教育拠点施設として発展させることによって、従来山添地区だけで行われていた幼児教育を通じた地域貢献を拡充する。
- ・教育学部を筆頭に、看護学部や生活科学部などの実習の場や、それぞれの教育研究の還元の場として取り組みを進める。

7. マネジメント

目 標

教学組織の持続的な改革を通して、資源の最適配分を計画・実行するマネジメント力を一層強化する。

評価指標

①教学マネジメントの機能強化

- ・改革推進を可能にする学長を中心とした全学的な教学マネジメント体制を強化する。
- ・各学部・研究科においても、学部長・研究科長を中心とした運営体制の強化を図り、環境の変化に対応できる機動的な意思決定及び実行体制を更に強化する。

②ハード（施設設備）とソフト（教育）一体となった教育改革の実施

- ・大規模校舎建替時期の到来及び教員大量退職時代の到来をチャンスと捉え、中長期計画に基づき、人的・物的資源の有効利用を可能にする資源の最適配置を構想し、実行する。
- ・教養教育の共通化、資格関連科目の相乗りなど、教育資源の有効な活用を図る体制を整備する。

③各種センターの整理・集約による機能強化

- ・機能の重複や曖昧な役割分担が問題となっている各種センターについて、整理・統合を進め、学修支援、社会連携については、その戦略拠点として「トータル・ライフデザインセンター」（仮称）に集約する。

④学内広報機能の充実

- ・本学の現状と取り組むべき課題を教職員が共有するために、学内広報機能を強化する。

⑤総合学園のメリットを活かした教育の展開

- ・保育園、幼稚園、こども園から大学・大学院までを擁する総合学園のメリットを活かし、学園内の各園・学校と連携した教育を展開するための体制を構築する。